

なぜ、繁殖海域で特に「親子クジラ」をそっと見守ることが大切なのでしょうか？

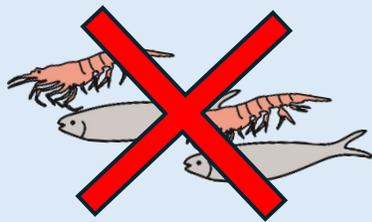
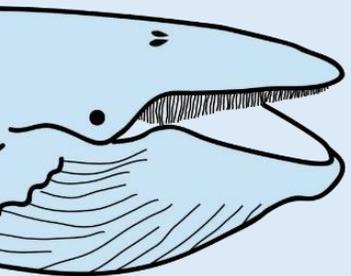


ザトウクジラ達は、
餌を食べるロシアなどの冷たい海域から、
交尾・出産と子育てをする暖かい繁殖海域まで、
約4,000～6,000キロ
もの距離を移動します。



③

そして、繁殖海域にいる数か月の間は、
エサを（ほぼ）食べません！



そんな中、
メスクジラは、約1年間の妊娠期間をへて、
この海域（繁殖海域）で出産します。

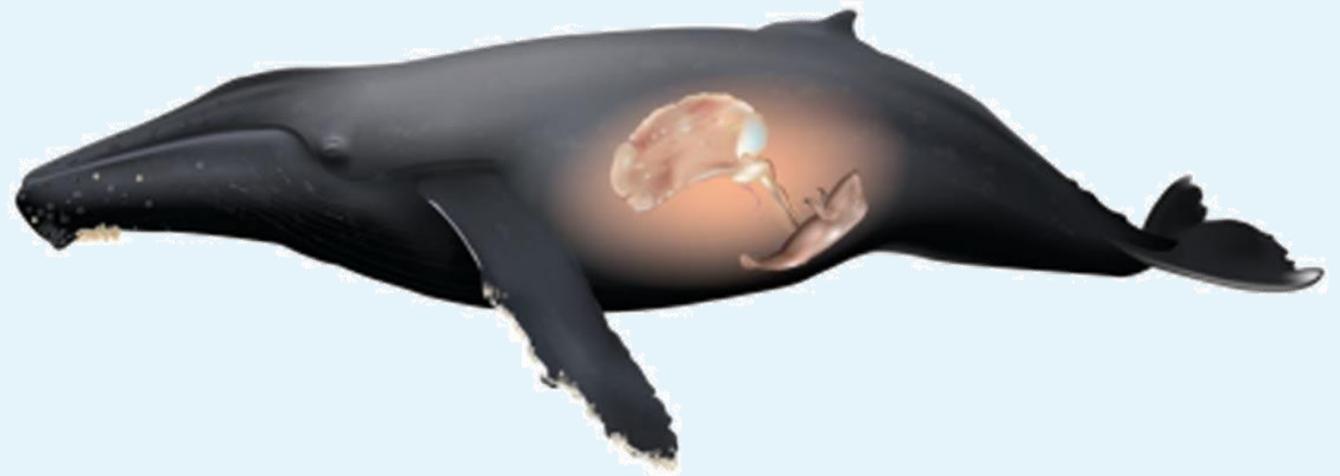


妊娠中の母クジラのエネルギー消費量は、出産直前に一気に増加！

これまでの研究から、母クジラが「妊娠中に使うエネルギー」のうち、**約99%が、出産前の最後の約100日ほどに集中**することがわかっています。

さらに、この時期は、

- 数千キロの長い距離を移動し
- 餌を食べる量が激減し
- 出産に向けて多くの体力を使う



という条件が重なり、

繁殖海域にいる「妊娠したメスクジラ」にとって、

出産直前は、浮いているだけでも体力を大きく消費するような、とても「負担の大きい時期」にあたります。

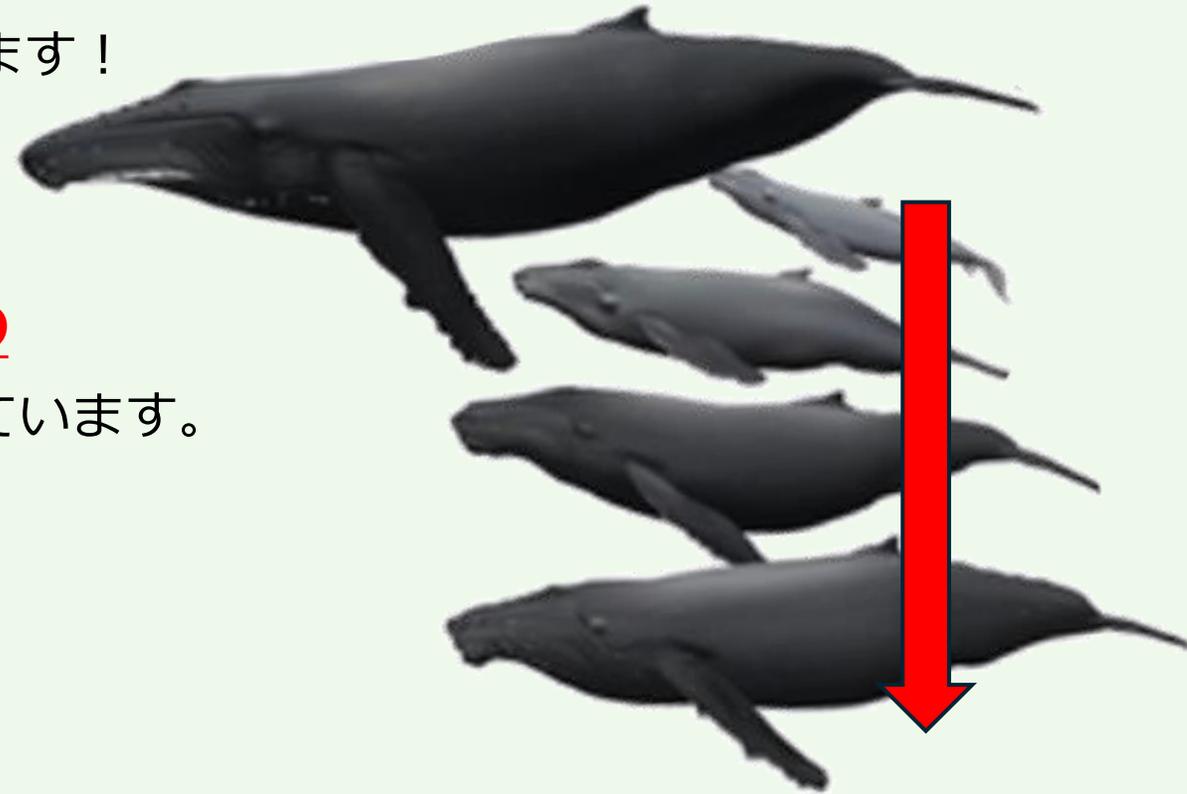
そして、子クジラが生まれてからは、さらに大変！！

子クジラは、生まれてからとても速いスピードで成長します。

生まれた子クジラの成長に必要なエネルギーは、お腹の中にいるときに比べて、**約38倍**にもなります！

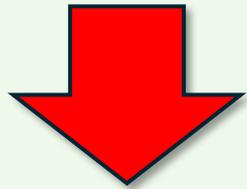
また子クジラは、成長するために、毎日**大人のクジラの6～8倍ものエネルギーを消費**（必要と）することがわかっています。

そして、この子クジラが必要とするエネルギーは、**すべて母クジラの授乳（母乳）によって**支えられています。そのため…



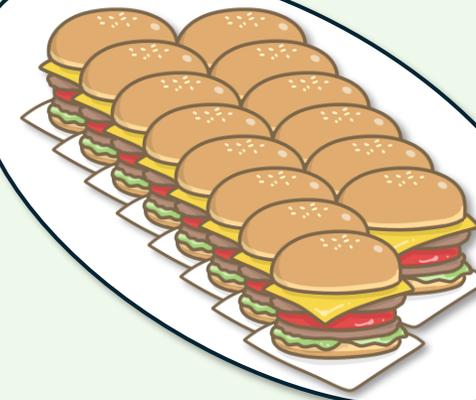
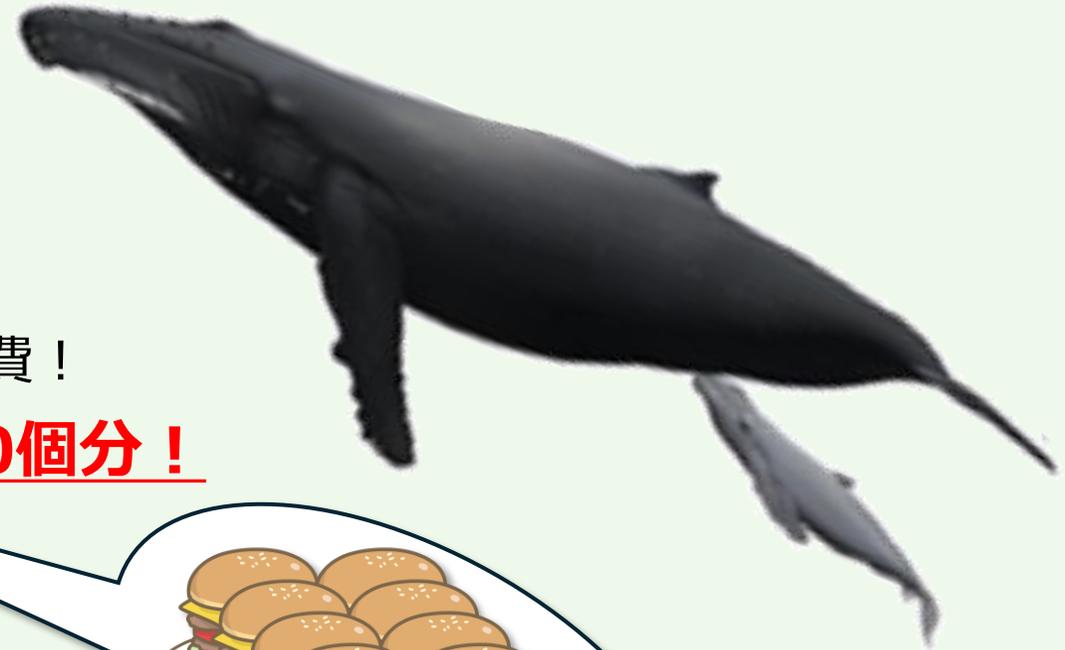
授乳中の母クジラは、毎日どんどん痩せていきます…

繁殖海域で授乳している母クジラは、
1日に約100キロも体重を減らしながら子育て！



エネルギーに換算すると、
1日に、**約621,000 キロカロリー**ものエネルギーを消費！
オキアミ = 約830キロ分、**ビッグマック = 約1,000個分！**

授乳期の母クジラは、
毎日、それだけたくさんのエネルギーを、
体にたくわえた栄養のみを使って 生み出し
子クジラを育てているのです。さらに…



子クジラの最も大事な「成長期」は繁殖海域にいる時期！

子クジラは、生後まもない数か月のあいだに、急激に大きくなります！

これまでの研究から、
子クジラの「成長」に必要なエネルギーの60%以上が生後150日以内に集中している
ことがわかっています。



そして、この生後150日ほどの期間は、母クジラが餌を食べずに繁殖海域で過ごし、さらに、**親子一緒にエサ場の海域に移動する時期。**

つまり、
出産 → 子育て、成長の期間（+長距離移動）は、母クジラと子クジラの「両方」にとっても大きな負担が集中している
ということがわかってきました。



そのため、親子クジラを「そっと見守る」ことがとっても大切なのです。

これらの研究から、

「妊娠後期から出産、授乳、子育て」の時期は、
ザトウクジラの親子にとって
一年の中で最も体力的に厳しい時期であることがわかりました。

そのため、この時期の親子クジラにとって、特に
「休息」、「授乳」、「体力を回復する時間」がとっても大切！

近づきすぎたり、繰り返し観察しすぎたりすると、親子の行動が変わり、
余分なエネルギーを使わせてしまう可能性。

さらに、**その後の成長や生存率低下にも影響する**可能性があります。

そのため、特に「親子クジラ」への負担をできるだけ減らし、
静かに、そっと見守ることを大切にしていきたいと考えています。

